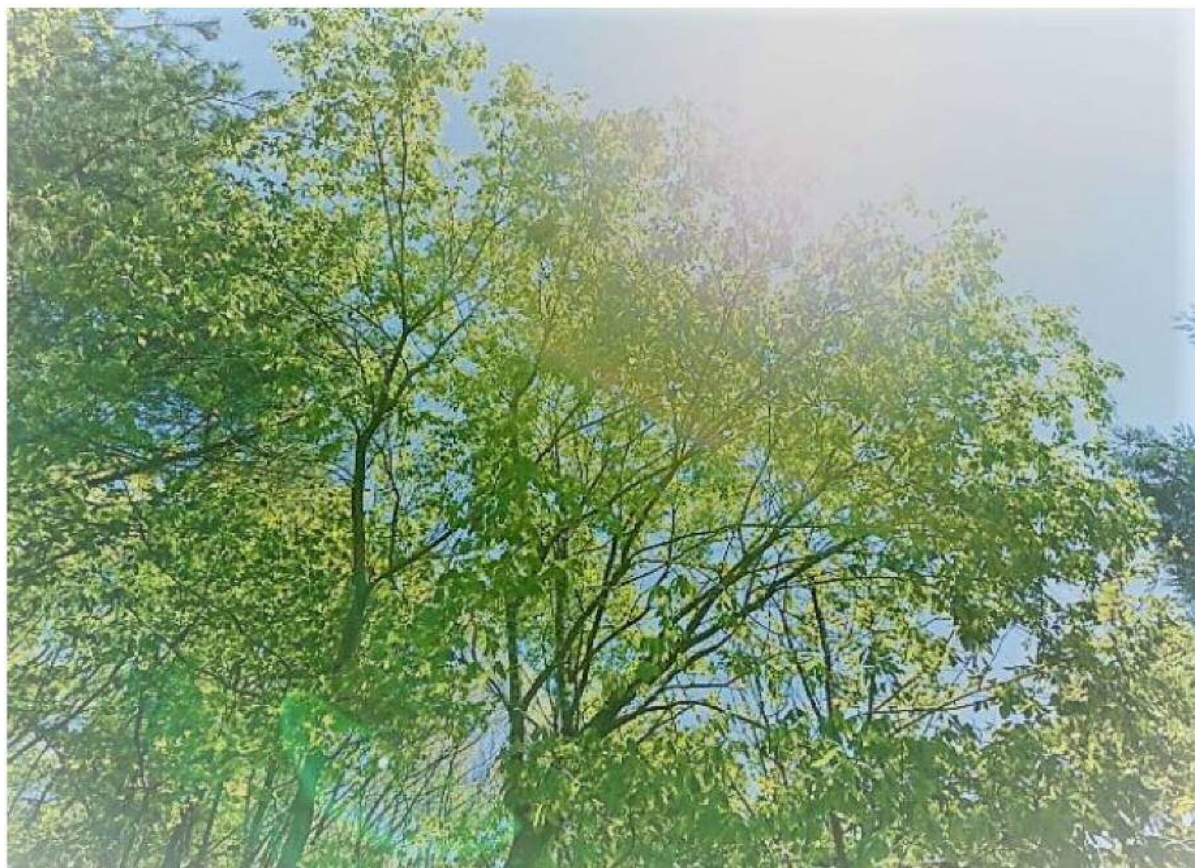




環境経営レポート

平成31年度

〈対象期間:平成31年4月～令和2年3月〉



® 環境省

エコアクション21
認証番号0004022

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT GOALS



黒崎白土工業株式会社

令和2年7月6日

当社では、平成20年12月に環境システムを構築して、環境保全活動をスタートしました。本レポートで活動を紹介するのは12回目の発行となります。



《表紙写真》

・工場の新緑

・撮影 小戸工場 澁谷 高宏

目次

	page
1. 組織の概要	2
2. 環境経営方針	3
3. 対象範囲等	4
4. 環境経営目標及びその実績	5
目標	5
実績	6
5. 環境経営計画と取り組み結果の評価、次年度の取り組み内容	9
6. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価並びに違反、訴訟等の有無	10
7. 環境活動の紹介	11
地域貢献活動・社会貢献活動	11
環境上の緊急事態対応訓練	12
事故及び緊急事態の想定訓練・講習	13
産業廃棄物処理施設現地確認・環境教育	14.15
8. 代表者による全体評価と見直しの結果	16

【製品の紹介】



猫 砂



ベントナイト



酸性白土（粉）



酸性白土（粒）

当社は、お客様のご要望に応じて、各種の酸性白土、ベントナイトを利用した製品を製造・販売いたしております。

1. 組織の概要

■ 事業所名及び代表者氏名

黒崎白土工業株式会社

代表取締役社長 黒崎 英和

■ 事業活動の内容

- ・ 法人設立年月日 昭和32年7月30日
- ・ 資本金 10,000千円
- ・ 事業内容 ベントナイト、酸性白土、粘土鉱物を原料とする吸着剤などの製造・販売

■ 所在地

- ・ 本社 〒957-0052 新潟県新発田市大手町1-14-15
TEL : 0254-22-1170
- ・ 小戸工場 〒957-0345 新潟県新発田市小戸2331
TEL : 0254-28-5930

■ 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

環境管理責任者 取締役 小戸工場長 渡邊義明
担当者連絡先 小戸工場 総務部長 山坂 修 TEL : 0254-28-5930
Eメール : o-yamasaka@kurosaki-hakudo.jp

■ 事業の規模等

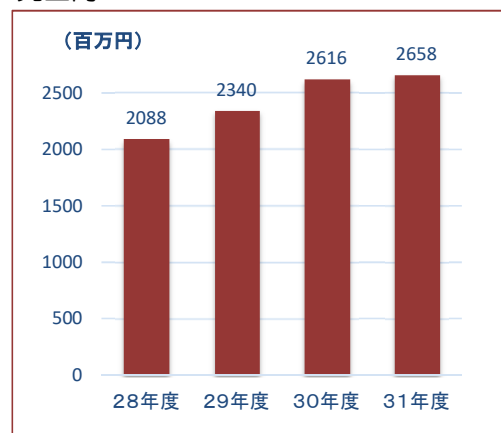
- ・ 従業員数 89名
(令和2年4月末現在)

- ・ 床面積合計(m²)

	28年度	29年度	30年度	31年度
合計	6,600.8	6,952.2	7,060.2	7,079.2
(内訳)				
工場製造部門	5,621.2	5,972.6	6,080.6	6,099.6
工場補助管理部門	822.8	822.8	822.8	822.8
本社部門	156.8	156.8	156.8	156.8

※31年度の工場製造部門床面積の増加は、工場出入口の増築による増加となります。

- ・ 売上高



■ 事業年度 4月～3月

2. 環境経営方針

環境経営方針

—基本理念—

当社は創業以来、粘土鉱物資源の恵みを受けて、特長ある無機化学製品の提供をめざしてきました。これまで資源と共に歩んだ私たちは、地球環境の課題を認識して、いま求められている環境への負荷低減に継続的に取り組み、環境との調和を図り積極的な環境保全に努めます。

さらに、「安全は何よりも優先する」「資源は有限である」「人に迷惑をかけない」を以って、安全操業・資源活用・責任行動を基に、企業としての社会的責任を果たし、無機化学製品を通じて豊かな社会づくりに貢献していきます。

—行動指針—

当社は基本理念に基づいて行動指針を定め、事業活動と地球環境の調和を目指し、環境負荷の低減のため継続的な環境保全活動を行い、併せて、環境経営の継続的改善を誓約します。

(1) 事業活動の環境負荷低減活動の重点実施事項を下記のとおり設定する。

- ① 省資源・省エネルギーを実践し、電気・化石燃料・水・紙の消費量減による二酸化炭素排出量の削減に努める。
- ② リサイクルを推進し、廃棄物の排出量の削減に努める。
- ③ 環境に配慮した製品の開発に取り組む。
- ④ 化学物質の適正管理および管理体制の徹底に努める。
- ⑤ 生物多様性保全活動の推進を図り環境保全に努める。

(2) 環境関連法規制を遵守すると共に、環境汚染の予防を推進し、地域の環境保全に努める。

(3) 環境経営システムを構築・運用して、全従業員参加で環境負荷の低減を継続的に取り組む。

(4) 地域の環境活動に積極的に参加する。

(5) 全従業員に環境経営方針・環境保全状況を含む環境教育を行い、環境意識の向上に努める。

(6) 環境への取り組みを環境経営レポートにより全従業員および外部に公表し、環境コミュニケーションに努める。

平成20年11月25日制定
平成22年10月12日改訂
平成24年10月22日改訂
平成25年 6月24日改訂
令和 元年 6月12日改訂
令和 2年 7月 3日改訂

黒崎白土工業株式会社
代表取締役社長 黒崎 英和

3. 対象範囲等

■ 対象とする組織

実施の役割分担

実施体制は、各自の役割、責任及び権限を以下のように定めている。

代表者（社長）

- ① EA21の最高責任者
- ② 環境経営方針の策定
- ③ 経営資源（人・設備・費用）の準備
- ④ 環境管理責任者・内部監査員の任命
- ⑤ 実施体制の構築
- ⑥ 代表者による評価と見直し
- ⑦ 以下の承認
 - ・環境経営目標、環境経営計画及び環境経営マニュアル
 - ・環境への負荷及び環境への取組の自己チェックの結果
 - ・環境関連法規などの取りまとめ表
 - ・外部からの苦情などの受付状況及び対応結果
 - ・問題点の是正処置及び予防処置の結果
 - ・内部監査実施計画及び内部監査実施報告
 - ・環境経営レポート

環境管理責任者（小戸工場長）

- ① 環境経営システムを構築し、維持する
- ② 環境推進委員会の開催
- ③ 環境経営計画に基づく活動取組状況の代表者への報告
- ④ 以下の文書類の作成・実施
 - ・環境関連法規などの取りまとめ表
 - ・環境への負荷及び環境への取組の自己チェックの結果
 - ・環境経営目標及び環境経営計画の作成と達成状況と評価
 - ・環境経営マニュアルの作成・見直し
 - ・外部からの苦情などの受付状況及び対応結果
 - ・問題点の是正処置及び予防処置の結果
 - ・代表者による全体の取組の評価と見直し
 - ・環境経営レポート
- ⑤ 以下の承認
 - ・環境関連法規などの遵守状況の結果
 - ・実施体制
 - ・環境教育計画
 - ・緊急事態訓練計画
 - ・環境教育の実施記録
 - ・事故及び緊急事態の想定
 - 結果及びその対策
 - ・環境上の緊急事態の対応に関する施行及び訓練の結果
 - ・組織が指定した手順書

環境推進委員会事務局

- ① 環境推進委員会の事務局
- ② 環境管理責任者の補佐業務
- ③ 以下の文書類作成・実施
 - ・環境関連法規などの遵守状況の結果作成
 - ・実施体制作成・見直し
 - ・環境教育計画及び緊急事態訓練計画
 - ・環境教育の実施記録
 - ・事故及び緊急事態想定
 - 結果及びその対策
 - ・環境上の緊急事態の対応に関する試行及び訓練の結果
 - ・組織が指定した手順書の作成・見直し
- ④ 環境関連文書の保管、配布及び廃棄

内部監査責任者

- ① 内部監査実施計画の作成
- ② 内部監査結果の報告

環境目標取組推進者

- ① 自部門の環境経営目標の実施計画の作成・実施の支援
- ② 自部門の実施するための手順書の作成支援
- ③ 部下に対して取り組みの指示及び周知と環境教育の推進支援
- ④ 環境推進委員会への出席
- ⑤ 環境経営目標の実施計画、進捗管理支援

環境内部コミュニケーション

- ① 環境経営管理会議
 - a) 代表者・環境管理責任者・部長・事務局で構成し、年2回（5月・10月）及び必要に応じて随時、代表者が招集する。
 - b) 環境経営方針及び環境経営目標を含む環境経営システムの改善・見直し及び変更の必要性の評価について審議する。
- ② 環境推進委員会
 - a) 環境管理責任者・部長・環境目標取組推進者・環境目標取組責任者及び環境管理責任者が必要と認めた者で構成し、月1回環境管理責任者が召集する。
 - b) 環境経営目標、環境経営計画の進捗管理及び環境に関する問題事項を審議・情報交換し意思疎通を図る。
 - c) 環境目標取組責任者は、環境推進委員会の内容を環境ミーティング時に部下に周知する。

■ 対象とする活動

ベントナイト、酸性白土、粘土鉱物を原料とする吸着剤などの製造・販売に関する全ての活動を対象とする。

環境推進組織図

黒崎白土工業株式会社 本社および小戸工場の当社全体とする。



内部監査員

- ① 内部監査の実施
- ② 内部監査での是正措置・予防措置要求の発行
- ③ 内部監査での是正、予防処置内容確認

環境目標取組責任者

- ① 自部門の環境経営目標の実施計画の作成と実施
- ② 自部門の実施するための手順書の作成
- ③ 部下に対して取り組みの指示および周知と環境教育の推進
- ④ 環境推進委員会への出席
- ⑤ 環境経営目標の実施計画の進捗管理

4. 環境経営目標及びその実績

■目標

平成28年度～平成31年度

環境経営目標項目	基準年度 (27年度) 総製品生産量 51,086.0t	環境経営目標値			
		28年度	29年度	30年度	31年度
電気使用量の削減 (kwh/総製品生産量 t・年)	112.8	△0.1% 112.7	△0.2% 112.6	(基準年度) 116.7	+3.4% 116.6
化石燃料使用量の削減 (MJ/総製品生産量 t・年)	2102.6	△0.1% 2,100.5	△0.2% 2,098.4	△0.3% 2,096.3	△0.4% 2,094.2
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂ /総製品生産量 t・年)	205.2	△0.1% 205.0	△0.2% 204.8	△0.3% 204.6	△0.4% 204.4
廃棄物排出量の削減 (kg・年)	1,064	△0.3% 1,061	△0.6% 1,058	△0.9% 1,054	△1.2% 1,051
総排水量の削減					
・上水 (ℓ/総製品生産量 t・年)	19.8	△0.1% 19.8	△0.4% 19.7	△0.7% 19.7	(基準年度) 39.8
・地下水 (ℓ/総製品生産量 t・年)	13.4	△0.1% 13.4	△0.2% 13.4	△0.3% 13.4	(基準年度) 28.0
コピー用紙使用量の削減 (枚・年(A4版換算))	73,625	△0.3% 73,404	△0.5% 73,257	△0.7% 73,110	△0.9% 72,962
環境配慮型の製品開発の推進 (点数・年)	130	130	130	130	160
生物多様性の推進(採掘所緑化) (㎡・年 累積)	16,766	+2% 17,101	+4% 17,437	+6% 17,772	+8% 18,107

注) 1. 「地下水使用量の削減目標値」・上水使用量の削減目標値」について、環境変動を加味して、目標値を新たに設定しました。

令和2年度～令和5年度

環境経営目標項目	基準年度 (31年度) 総製品生産量 61,876.4t	環境経営目標値			
		2年度	3年度	4年度	5年度
電気使用量の削減 (kwh/総製品生産量 t・年)	109.3	△0.1% 109.2	△0.2% 109.1	△0.3% 109.0	△0.4% 108.9
化石燃料使用量の削減 (MJ/総製品生産量 t・年)	1,997.3	△0.1% 1995.3	△0.2% 1993.3	△0.3% 1991.3	△0.4% 1989.3
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂ /総製品生産量 t・年)	196.1	△0.1% 195.9	△0.2% 195.7	△0.3% 195.5	△0.4% 195.4
二酸化炭素実排出量 (kg-CO ₂ /年)	12,131,279.1	12,119,147.8	12,228,086.7	12,340,426.5	12,452,595.1
廃棄物排出量の削減 (kg・年)	839	△0.1% 838.2	△0.2% 837.3	△0.3% 836.5	△0.4% 835.6
総排水量の削減					
・上水 (ℓ/総製品生産量 t・年)	43.8	△0.1% 43.8	△0.2% 43.7	△0.3% 43.7	△0.4% 43.6
・地下水 (ℓ/総製品生産量 t・年)	30.1	△0.1% 30.1	△0.2% 30.0	△0.3% 30.0	△0.4% 30.0
コピー用紙使用量の削減 (枚・年(A4版換算))	76,947	△0.1% 76,871	△0.2% 76,796	△0.3% 76,720	△0.4% 76,645
環境配慮型の製品開発の推進 (点数・年)	130	130	130	130	160
生物多様性の推進(採掘所緑化) (㎡・年 累積)	21,046	+2% 21,466.9	+4% 21,887.8	+6% 22,308.8	+8% 22,729.7

注) 1. 「電力使用量の削減」、「化石燃料使用量の削減」、「二酸化炭素排出量の削減」及び「総排水量の削減」の環境経営目標については、当社における総製品生産量当たりの原単位としました。

2. 二酸化炭素排出量の削減では、購入電力の二酸化炭素排出後調整係数0.528kg-CO₂/kwh (東北電力㈱ 2018年度調整後排出係数) を用いて算定しています。

3. 「環境配慮型の製品開発の推進」は現在、凝集補助剤の開発及び新たな製品の企画・調査を対象としており、各開発段階に置ける評価点を次のようにしています。

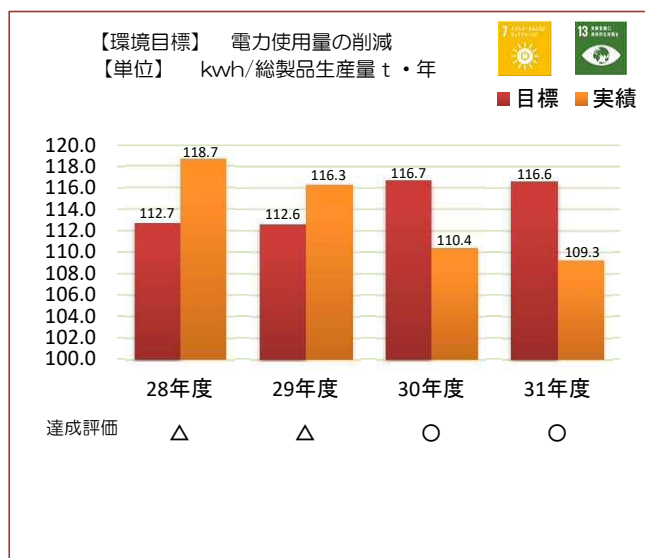
ステップ1 製品企画、調査・・・30点 ステップ2 製品研究開発、設計・・・60点
ステップ3 試作品製造、改良・・・80点 ステップ4 上市、量産・・・100点

■実績
平成31年度 実績

環境経営目標項目		基準年度 (27年度) 総製品生産量 51,086.0 t	目標	実績 (31年度) 総製品生産量 61,876.4 t	達成評価	
電気使用量の削減 (kwh/総製品生産量 t・年)		112.8	+3.4% 116.6	△3.1% 109.3	○	 
化石燃料使用量の削減 (MJ/総製品生産量 t・年)		2,102.6	△0.4% 2,094.2	△5.0% 1,997.3	○	 
二酸化炭素排出量の削減 (kg-CO ₂ /総製品生産量 t・年)		205.2	△0.4% 203.8	△4.4% 196.1	○	 
二酸化炭素実排出量 (kg-CO ₂ /年)		10,481,797.10		12,131,279.06		
廃棄物排出量の削減 (kg・年)		1,064	△1.2% 1,051	△21.1% 839	○	
総排水量の削減	・上水 (ℓ/総製品生産量 t・年)	19.8	(基準年度) 39.8	+121.2% 43.8	△	
	・地下水 (ℓ/総製品生産量 t・年)	13.4	(基準年度) 28.0	+124.6% 30.1	△	
コピー用紙使用量の削減 (枚・年(A4版換算))		73,625	△0.9% 72,962	+4.5% 76,947	△	 
環境配慮型の製品開発の推進 (点数・年)		130	160	130	△	  
生物多様性の推進(採掘所緑化) (㎡・年 累積)		16,766	+8% 18,107	+25.5% 21,046	○	

※ 達成評価 ○：目標達成 △：努力したが未達成 ×：目標未達成

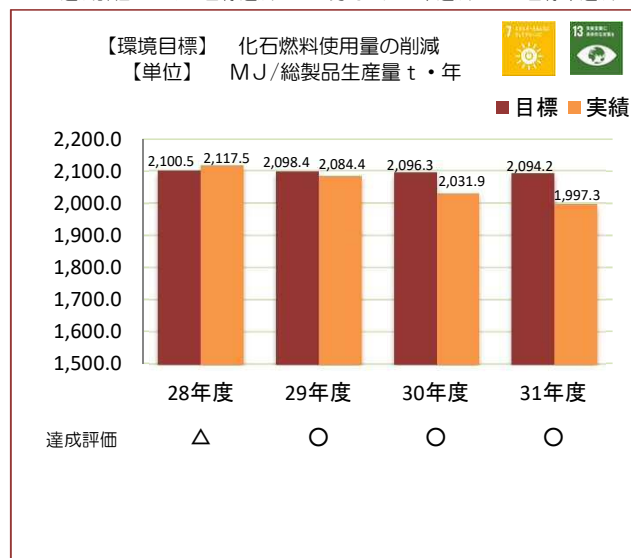
(注) 二酸化炭素排出係数は、2018年 東北電力(株)調整後排出係数0.528kg-CO₂/kwhを使用しています。



	28年度	29年度	30年度	31年度
目標	△0.1% 112.7	△0.2% 112.6	+3.5% 116.7	+3.4% 116.6
実績	+5.2% 118.7	+3.1% 116.3	△2.1% 110.4	△3.1% 109.3

●電力監視装置により電力使用量を管理し、機械の更新により生産工程の負荷を低減しました。
部署別に電力の削減に努め、目標を達成しました。

※ 達成評価 ○：目標達成 △：努力したが未達成 ×：目標未達成



	28年度	29年度	30年度	31年度
目標	△0.1% 2,100.5	△0.2% 2,098.4	△0.3% 2,096.3	△0.4% 2,094.2
実績	+0.7% 2,117.5	△0.9% 2,084.4	△3.4% 2,031.9	△5.0% 1,997.3

●丁寧で早い整備を心掛け、乾燥炉の稼働時間を、増やすことにより原単位を削減しました。

※ 達成評価 ○：目標達成 △：努力したが未達成 ×：目標未達成

【環境目標】 二酸化炭素排出量の削減
【単位】 kg-CO₂/総製品生産量 t・年



	28年度	29年度	30年度	31年度
目標	△0.1%	△0.2%	△0.3%	△0.3%
	205.0	204.8	204.6	204.4
実績	+2.0%	+0.3%	△3.0%	△4.4%
	209.4	205.8	199.0	196.1

●排出量の大きな要因である電力、化石燃料使用量を削減できたことで、二酸化炭素排出の目標を達成しました。
二酸化炭素排出係数は、2018年の調整後排出係数にて4カ年分を再計算しました。

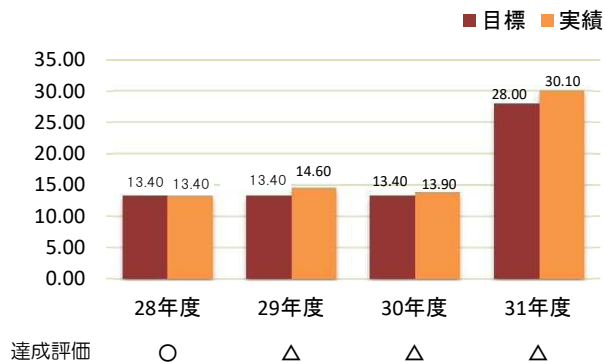
【環境目標】 廃棄物排出量の削減
【単位】 kg・年



	28年度	29年度	30年度	31年度
目標	△0.3%	△0.6%	△0.9%	△1.2%
	1,061	1,058	1,054	1,051
実績	△2.4%	△17.3%	△23.2%	△21.1%
	1,038	880.0	817.5	839.0

●分別の徹底・定着やリサイクル等の工夫により目標を達成しました。

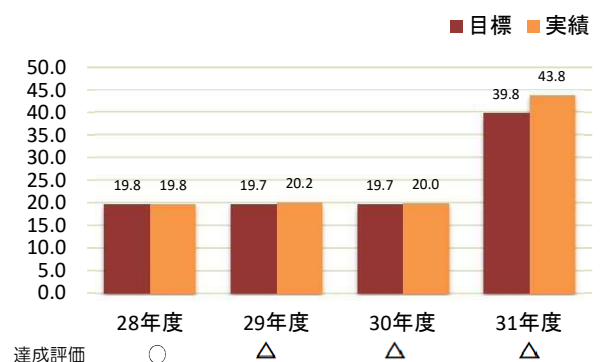
【環境目標】 総排水量の削減（地下水）
【単位】 ℓ/総製品生産量 t・年



	28年度	29年度	30年度	31年度
目標	△0.1%	△0.4%	△0.7%	+101.0%
	19.8	19.7	19.7	39.8
実績	0.0	+2.0%	+1.0%	+121.2%
	19.8	20.2	20.0	43.8

●製品の安定した品質維持の為、原料への散水に使用しました。目標値の見直しも行いましたが、目標を達成できませんでした。

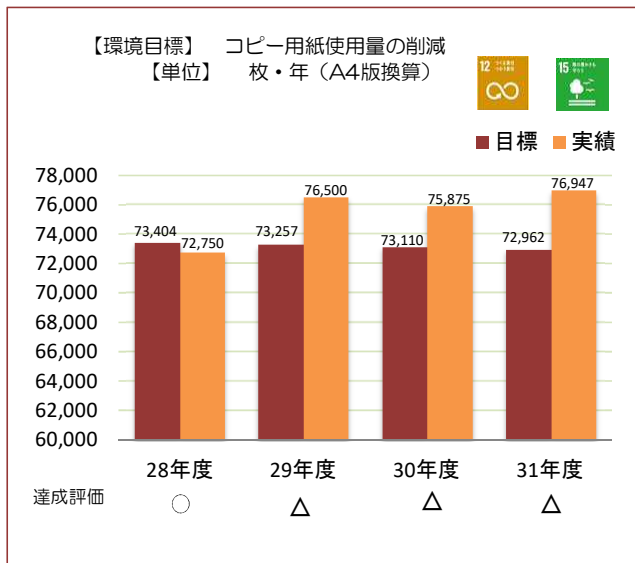
【環境目標】 総排水量の削減（上水）
【単位】 ℓ/総製品生産量 t・年



	28年度	29年度	30年度	31年度
目標	△0.1%	△0.2%	△0.3%	+109.0%
	13.40	13.40	13.40	28.00
実績	0.0	+9.0%	+3.7%	+124.6%
	13.40	14.60	13.90	30.10

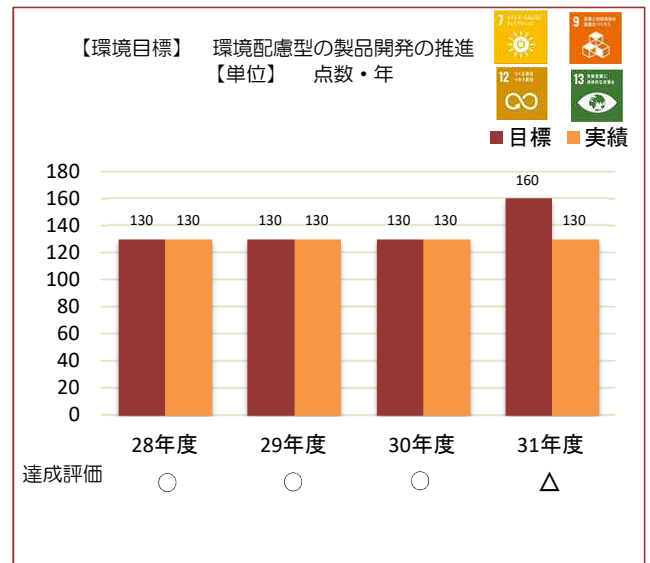
●地下水の使用量の増加により、地下水の吐出量が減少した為、上水を使用しました。目標の見直しも行いましたが、目標を達成できませんでした。

※ 達成評価 ○：目標達成 △：努力したが未達成 ×：目標未達成



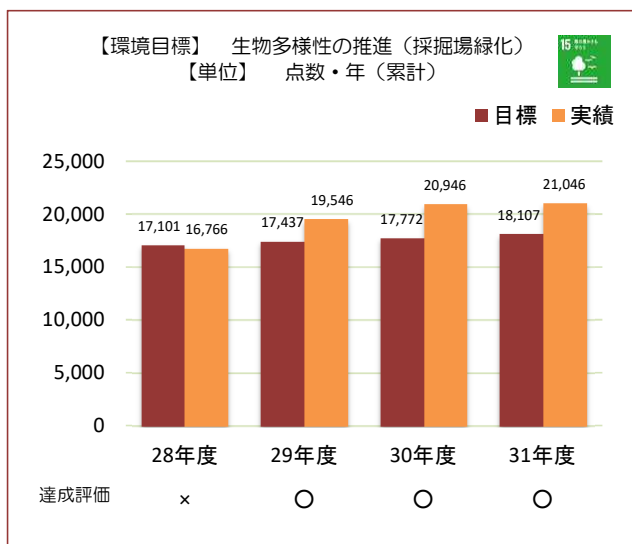
	28年度	29年度	30年度	31年度
目標	△0.3%	△0.5%	△0.7%	△0.9%
	73,404	73,257	73,110	72,962
実績	△1.2%	+3.9%	+3.1%	+4.5%
	72,750	76,500	75,875	76,947

●事務所内のペーパーレス化を図りましたが、関連部署資料等の増加により、目標を達成できませんでした。



	28年度	29年度	30年度	31年度
目標	—	—	—	—
	130	130	130	160
実績	—	—	—	—
	130	130	130	130

●現状の製品の品質保持を優先させた結果、目標を達成できませんでした。



	28年度	29年度	30年度	31年度
目標	+2%	+4%	+6%	+8%
	17,101	17,437	17,772	18,107
実績	0.0%	+16.6%	+24.9%	+25.5%
	16,766	19,546	20,946	21,046

●法面形成が完了した場所から計画的に緑化を実施しています。

5. 環境経営計画と取り組み結果の評価、次年度の取り組み内容

環境経営計画については、次年度も継続して取り組みを行います。

上段：H30年度

下段：H31年度

環境経営計画	実績評価			次年度の 取り組み
	工場 (製造)	品管 研 開	事務 本 社	
二酸化炭素の削減				
電力使用量・使用料金の削減				
①休業日は、動力盤の元ブレーカーを切り、待機電力を減少させる。	100	-	-	継続
	100	-	-	
②自然採光を取り入れる事により、不要な照明を消灯する。	100	100	100	継続
	100	100	99	
③照明器具、小型モーターの更新時は省エネタイプを採用する。	100	100	100	継続
	100	100	100	
④エアー配管からの漏れに注意を払う。	100	-	-	継続
	100	-	-	
⑤機械設備の異音や発熱に日頃から注意を払い、電動機の過負荷をおさえる。	100	-	-	継続
	100	-	-	
⑥工場・管理室・事務所等の不要な照明は消灯する。	100	100	100	継続
	100	100	100	
⑦管理室・事務所等の冷房室温管理（冷房28℃・暖房20℃）を徹底する。	98	96	99	継続
	99	95	99	
⑧使用電力が超過にならないように作動する機械を調整する。	100	-	-	継続
	100	-	-	
⑨各工場の電気使用量が電力計を超えないように調整する。	100	-	-	継続
	100	-	-	
化石燃料使用量の削減				
①品質規格内での製造を心掛け、過乾燥にならないようにする。	100	-	-	継続
	100	-	-	
②乾燥装置の放熱を防ぐと同時に冷空気の吸い込みをなくする。	100	-	-	継続
	100	-	-	
③重機、車両のアイドリングは最短に抑える。	100	-	-	継続
	100	-	-	
④管理室・事務所等の暖房室温管理（冬20℃）を徹底する。	99	100	100	継続
	99	100	100	
⑤給湯器の給湯温度管理（30℃）を徹底する。（夏場は極力温水を使用しない）	100	100	100	継続
	100	100	100	
⑥キルン投入前の原土水分管理を徹底する。	100	-	-	継続
	100	-	-	
⑦丁寧に早い整備を行い、稼働時間を増やし、稼働中のトラブルを減らす。	100	-	-	継続
	100	-	-	
廃棄物排出量の削減				
①一般廃棄物の分別と新聞雑誌類の再資源化を徹底する。	100	100	98	継続
	100	100	100	
②必要以上のカタログ類は入手しない。	100	100	100	継続
	100	100	100	
③連絡事項は回覧方式を多く取り入れる。	100	100	100	継続
	100	100	100	
④物品資材は適正数量の購入を常に考え、不要な廃棄物を削減する。	100	100	100	継続
	100	100	100	
⑤産業廃棄物の再資源化への分別を徹底する。	100	100	99	継続
	100	100	100	
⑥不良品を出さないよう注意をする。	99	-	-	継続
	99	-	-	
総排水量の削減				
上水使用量の削減				
①水道蛇口の節水コマの導入を進め、水の使用量を抑える。	100	100	100	継続
	100	100	100	
②水道の無駄な出しっ放しを極力避け、バケツ利用で節水する。	100	100	100	継続
	100	100	100	
③水道配管からの漏洩を点検する。	100	100	100	継続
	100	100	100	
地下水使用量の削減				
①地下水の不要な使用は控え、使用量を管理する。	100	-	-	継続
	100	-	-	
②一カ月に一度、給水設備を点検する。	100	-	-	継続
	100	-	-	
コピー用紙使用量・使用料金の削減				
①使用裏紙の再使用と両面コピーで紙の使用量を削減する。	-	100	100	継続
	-	100	100	
②PC印刷は両面・印刷プレビューの確認で、ミスプリント紙を削減する。	-	100	100	継続
	-	100	100	
③コピー機の使用回数を減らす工夫をし使用料金を削減する。	-	100	100	継続
	-	99	100	
化学物質使用量				
①保有試薬管理帳を備え、化学物質の保有量等を管理する。	100	100	-	継続
	100	100	-	
②化学物質の購入・使用・保管管理のルール化による徹底管理を行う。	-	100	-	継続
	-	100	-	
環境配慮型の製品開発の推進				
①環境配慮型の製品開発のステップ向上に努める。	ステップ1 製品企画、調査・・・30点			継続
	ステップ2 製品研究開発、設計・・・60点			
	ステップ3 試作品製造、改良・・・80点	130点	-	
	ステップ4 上市、量産・・・100点			
		130点	-	
生物多様性の推進				
①採掘跡地の計画的な緑化を行う。	100	-	-	継続
	100	-	-	
地域貢献活動の実施				
①県道・市道のクリーン活動を行う。	100	100	100	継続
	100	100	100	
②花いっぱい活動を実施し、地域の集落内にプランターを設置する。。	100	100	100	継続
	100	100	100	
社会貢献活動の実施				
①新発田市が主催する社会貢献活動へ率先して参加する。。	100	100	100	継続
	100	100	100	

注) 実績評価欄は、四半期ごとに担当者が10点満点で評価した活動に対する評点の平均値。また、環境配慮型の製品開発の推進は、平均値ではなく年度の達成点数を記入する。

6. 環境関連法規等の遵守状況の確認・評価並びに違反、訴訟等の有無

当事業所が規制を受ける環境関連法規について、自社において遵守状況を点検した結果です。点検の結果、すべてを遵守していることを確認しました。

なお、関係行政当局よりの違反等の指摘は、過去10年間ありませんでした。また、訴訟等也没有ありません。

環境関連法規	主な要求事項	点検結果	
フロン類の使用の合理化等及び管理の適正化に関する法律	点検の実施及び点検記録簿の保管 廃棄時には、第一種フロン類充填回収業者に冷媒フロンを引き渡す	遵守	
使用済自動車の再資源化等に関する法律	使用済自動車の引取業者に引渡、リサイクル費用負担	遵守	
大気汚染防止法	ばい煙発生施設の届出、排出基準の遵守、ばい煙量・濃度の測定	遵守	  
水質汚濁防止法	特定施設の届出、排水基準の遵守、排水水の汚染状態の測定	遵守	 
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	「一般廃棄物」：委託の基準の遵守 「産業廃棄物」：保管基準の遵守、委託基準の遵守、マニフェスト管理および年間状況報告	遵守	
エネルギーの使用の合理化等に関する法律	第一種エネルギー管理指定工場の届出、エネルギー使用状況の届出、エネルギー管理者の選任及び届出、中長期的な計画の作成	遵守	 
地球温暖化対策の推進に関する法律	特定事業者としての温室効果ガス排出量の報告、排出抑制計画の策定	遵守	 
消防法	危険物貯蔵所の設置許可、点検の実施及び点検記録簿の保管	遵守	  
浄化槽法	浄化槽の保守点検・清掃、放流水検査の実施	遵守	 
毒物及び劇物取締法	毒劇物の表示、施錠できる施設での保管	遵守	  
PRTR法	第1種特定化学物質の排出量、移動量の届出、適正管理	遵守	 
特定工場における公害防止組織の整備に関する法律	公害防止管理者の選任	遵守	   
工場立地法	敷地面積9千㎡以上、建物面積3千㎡以上は届出	遵守	
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例	産業廃棄物を処分委託する場合、委託先の処理施設稼働状況の確認・記録・記録の保存等の義務	遵守	
新潟県生活環境の保全等に関する条例	騒音振動の規制基準の遵守義務	遵守	 
新発田市公害防止条例	公害防止協定の締結	遵守	   
新発田市水道水源保護条例	協定の締結、水質検査の実施と結果の報告 等	遵守	 

7. 環境活動の紹介

【地域貢献活動】



・クリーン活動（14名参加）

今年も継続して、9月に工場周辺道路のゴミ拾いを行いました。

また、昨年雨天で実施できなかった県道・市道沿いのごみ拾いも行いました。



・花いっぱい活動

今年も継続して工場・周辺の集落内で花いっぱい活動を行いました。

昨年同様にプランター用の肥料を事務所脇に設置していたエコ・コンポストで作った茶殻肥料を使いました。

夏の間、日照りが続き、ちゃんと育つか心配しましたが、すべて立派に育ちました。

朝、夕の水まきは、全従業員が当番制で行いました。



植込み完了。



秋まで元気に育ちました。

【社会貢献活動】



・新発田市主催の大クリーン作戦へ参加

工場がある地元集落で開催された大クリーン作戦へ参加しました。

その他の従業員は居住地域で開催されたクリーン作戦へ参加しました。



会社から10名が参加しました。



【環境上の緊急事態対応訓練】

・白濁排水 外部通報対応訓練



訓練は、白濁水が流出し、外部の通報者より電話連絡があった場合を想定して行いました。

手順書の確認、初期対応（通報対応・報告）、外部者からの通報に的確に対応することを目的としました。



休日出勤時を想定した訓練も行いました。



外部通報者役

・重油漏洩訓練（全体訓練）



重油の漏洩を想定した全体訓練を実施しました。河川水を漏洩した重油に見立て流し、実践的な訓練を行いました。

手順書の確認、初期対応（連絡・通報・役割行動）と河川への流出防止方法の習得を目的として行いました。



サブタンクからの重油の漏洩を想定した訓練を行いました。



夜間を想定し少人数での重油漏洩訓練も行いました。

・灯油漏洩訓練・軽油漏洩訓練（使用する部署ごとに実施）



工場内で使用する化石燃料が漏洩した想定で個別訓練を実施しました。

手順書の確認、初期対応（連絡・通報・役割行動）の習得を目的として行いました。



暖房用として使用している灯油がポリタンクから漏洩した想定で訓練を行いました。



工場で使用している重機へ給油中に軽油が漏洩した想定で訓練を行いました。

【事故及び緊急事態の想定訓練・講習】

・消防訓練（全体訓練）



工場内で火災が発生した想定で、消防訓練を実施しました。
終了後、初期消火訓練と担架の組立訓練を行いました。



消火班による初期消火



水消火器を使った初期消火訓練

・普通救急救命講習（全体講習）



消防署の出張指導による普通救急救命講習を実施しました。
前半は応急手当についてのビデオ講習を行い、後半はAEDを用いた心肺蘇生についての実技講習を行いました。



・電気作業講習



会社の電気担当者が講師となり、作業の経験が浅い従業員に対して、電気の作業講習を実施しました。
作業する際に危険があることを認識してもらい、今後の安全作業に寄与しました。。



【産業廃棄物処理施設現地確認】



産業廃棄物処理施設の現地確認を行いました。今年は新入社員を含む6名が参加しました。また、処理の過程に問題はありませんでした。



小柳産業(株) 再資源化工場 様



【環境教育】



・緊急事態対応教育（白濁水流出）

梅雨シーズンに備え、白濁水が流出した時の対応手順について各部署ごとで教育を実施しました。

・EA21内部監査員養成講習・レベルアップセミナー 開催

外部講師の指導のもと、新たに内部監査員の養成を行いました。また、新しくなった2017年版ガイドラインに対応した講習を行い、内部監査員のレベルアップを図りました。



内部監査員養成講習



内部監査員レベルアップ講習

・場内作業車両の取扱い教育

工場で使用する車両の取扱いについて、安全及び、環境に配慮した運転を行えるように、外部講師を招き、安全教育を実施しました。



実技講習は採点方式で評価を行いました。

【環境教育】



- ・年末に全体研修を実施（化学物質・SDGs・家電）

- ・化学物質教育 工場で使用している化学物質のリスクアセスメントについて教育を実施いたしました。



リスクアセスメントの流れ



- ・SDGsについて SDGsとEA21の活動を紐付けし、SDGsへの理解を深めました。

当社のエコアクション21への取組とSDGsについて

- ・環境経営目標への取組
- SDGsの17の目標の中で環境と関わりの深い目標は



となる。

◎当社はエコアクション21への取組で、4カ年の環境経営目標を数値化し、その達成のための行動目標を設定している。毎年、達成状況の評価を行い、新たな改善を行っている。

当社の環境活動とSDGs紐付

【環境活動・環境教育等】

- 化石燃料漏洩訓練
- 化学物質漏洩訓練
- 地域貢献活動（花いっぱい、クリーン作戦）
- 社会貢献活動（新発田市クリーン作戦）
- 環境教育
- 産業廃棄物処理場見学
- 浄化槽管理
- 製造工程変更による省エネ等
- 環境騒音測定



当社の環境目標とSDGs紐付

【環境経営目標】

- 電気・化石燃料の削減
- 二酸化炭素削減
- 産業廃棄物削減
- 上水・地下水の削減
- コピー紙削減
- 環境配慮型製品開発
- 採掘所の緑化



- ・家電の話 会社だけでなく家庭でも環境負荷の低減（電気代を安く）を目的に実施しました。

家庭での環境負荷の低減

電気代の節約



★冷蔵庫の電気使用量の推移



★冷蔵庫の大きさの違う電気使用量は



買い替えを考えたら試してみよう！

○「しんきゅうさん」環境省(温暖化対策サイト)

①パソコンで「しんきゅうさん」と検索

②「省エネ製品買換ナビゲーション「しんきゅうさん」COOL……」

「省エネ製品買換ナビゲーション」をクリック

○その他では

家電チラシで購入を考えたら

購入時は★に注目！

省エネ性能

省エネ性能

省エネ性能

省エネ性能

8. 代表者による全体評価と見直しの結果

(1) 代表者による指示事項

点 検 項 目		見直しによる指示事項	見 直 し の 必 要 性
環境経営方針		「環境経営の継続的改善の誓約」を加える。	☒ 有 ☐ 無
環境経営目標		地下水使用量・上水使用量について、目標値を新たに設定しました。	☒ 有 ☐ 無
環 境 経 営 計 画		特になし	☐ 有 ☒ 無
経営システム	法 令 遵 守	特になし	☐ 有 ☒ 無
	苦情等対応	特になし	☐ 有 ☒ 無
	是正予防措置	- 地下水および上水の使用量について、使用量の増加により是正措置を行いました。 31年度の地下水および上水の使用量について、環境経営目標の見直しを行いました。 - 今後、地下水、上水の使用が見込まれるため、平成31年度の実績により環境経営目標を設定する。 - コピー用紙使用量について、使用量の増加により是正措置を行いました。 - 使用量について、部署別の環境経営目標を設定し、引き続きペーパーレス化をお願いしたい。	☒ 有 ☐ 無
	そ の 他	実施体制については変更なし	☐ 有 ☒ 無

(2) 代表者による総評

平成20年11月にスタートしたエコ活動も早いもので満10年目を迎え、昨年11月には10年継続表彰を頂きました。この10年間、環境活動をご支援、ご指導頂いた地域事務局、審査員の皆様に社員一同、御礼申し上げます。

エコ活動については、本年度も全員参加で取り組みましたが、結果として、「地下水使用量の削減」「上水使用量の削減」「環境配慮型の製品開発の推進」「コピー用紙使用量の削減」が未達成となりました。

地下水・上水使用量の増加は、天然鉱物を原料としている中で、安定した品質保持のために地下水・上水を使用したもので、環境配慮型の製品開発についても、現状の製品の品質保持を優先させた結果、未達成となりました。また、「コピー用紙の使用量の削減」については、今後部署別の目標を設定し、引き続き削減に努めるよう指示をいたしました。

環境保全・環境への負荷の低減に向けた取り組みとして、昨年度より実施していた猛暑対策に加え、工場の屋根に断熱塗装を施工し、社員が働きやすい作業環境を確保することができました。また、老朽化した重油タンクを解体し、新しいタンクを新築いたしました。

設備面では、原料を粉砕する機械の入替を実施し、電力使用量の削減、作業環境の改善に取り組みました。

教育では、EA21ガイドラインが2017版へ移行となったことを受け、内部監査員のレベルアップ講習を実施し、併せて、新しい内部監査員の養成講習を行いました。また、全従業員を対象とした普通救急救命講習も実施いたしました。

次年度についても環境経営方針で基本理念として掲げる「環境への負荷低減に継続的に取り組む」「環境との調和を図り積極的な環境保全に努める」を中心に活動を行い、社員一人一人が環境保全の意識向上に努め、全員参加の活動を継続実施し、成果に結び付けたいと考えております。